

30年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7日月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 44.4	△ 5.6	5.6
	ヒノキ	△ 28.6	△ 7.1	7.1
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	△ 11.1	0.0	11.1
	ヒノキ	△ 12.5	△ 18.8	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 38.9	△ 11.1	11.1
	ヒノキ	△ 35.7	△ 28.6	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の入荷動向は7月、8月の減少から9月は増加に。カラマツは7月の増加から8月、9月は横ばいに。トドマツは7月の横ばいから8月、9月は増加に。

・スギの消費動向は7月の減少から8月は横ばい、9月は増加に。ヒノキは7月、8月の減少から9月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の横ばいから8月は増加、9月は再び横ばいに。

・スギの在庫動向は7月、8月の減少から9月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の減少から7月、8月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
スギ	18.8	12.5	18.8
ヒノキ	12.5	6.3	12.5
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキの原木価格動向は、7月の豪雨災害の影響により強含み。

・カラマツ、トドマツとも横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツは消費量程度の入荷。トドマツは公有林の事業が始まったばかりで入荷は少ない。積極的に集材を行っているが、消費量程度の在庫に留まる（北海道）。

・トドマツの仕入は国有林のシステム販売分が出材開始のためやや増加。在庫に合わせて生産。長級アイテムによっては在庫不足（北海道）。

・継続的な入荷状況であるが、スギ、ヒノキとも6月と比べると若干少なくなってきた。消費・在庫とも若干減少している（東北）。

・伐採の時期ではないのでスギ、ヒノキの入荷は少ない。夏場のため休日増で生産・消費とも減少（関東）。

・梅雨などで出材が減っているのでスギ、ヒノキの入荷はやや減少気味。消費はほぼ変わらない。9月頃から在庫をやや増加させる予定(中部)。

・梅雨のため一時的に出材は滞っているが回復は早い。消費は製材ライン調整中のため現状維持。18～22cmの中目在庫が増えている（中国）。

・6月にやや増産するためヒノキ丸太消費やや増。7～8月は6月並みの丸太消費（中国）。

・天候具合もあり市場への入荷が少ない。8月からは回復すか。在庫が増える程入荷がない。「減少」に近い「やや減少」だ（九州）。

・当月は豪雨の影響がありスギ・ヒノキ丸太とも入荷やや減少（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ丸太は高値安定（北海道）。
- ・スギ原木不足で価格上昇（関東）。
- ・9月頃からやや上昇するイメージ（中部）。
- ・7～8月は豪雨災害の影響で出材が大きく減ると高騰する可能性がある（中国）。
- ・ヒノキ丸太は若干下がったが限定的である（九州）。
- ・スギ、ヒノキとも今のところ比較的落ち着いている（九州）。

30年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
生産動向	スギ	△ 6.3	6.3	18.8
	ヒノキ	△ 18.8	△ 12.5	18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 6.3	△ 6.3	12.5
	ヒノキ	0.0	△ 6.3	18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	0.0	△ 7.1
	ヒノキ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は7月の減少から8月は横ばい、9月は増加に。ヒノキは7月、8月の減少から9月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の横ばいから8月は増加、9月は再び横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は7月、8月の減少から9月は横ばいに。ヒノキは7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の横ばいから8月は増加、9月は再び横ばいに。

・スギ製材品の在庫動向は7月、8月の横ばいから9月は減少に。ヒノキは7月の横ばいから8月、9月は減少に。カラマツ、トドマツとも3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	6.3	6.3	18.8
	柱角 KD12×3	6.3	6.3	12.5
	通し柱 12×6	10.0	0.0	0.0
	桁角	△ 7.1	0.0	0.0
	母屋角	12.5	6.3	12.5
	タルキ	6.3	6.3	6.3
	間柱	6.3	0.0	6.3
	ヌキ	16.7	△ 8.3	8.3
	平割	0.0	0.0	7.1
	ラミナ	0.0	0.0	12.5
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	16.7	8.3
柱角 KD12×3		16.7	0.0	0.0
土台角 10.5×4		14.3	7.1	7.1
土台角 12×4		7.1	0.0	0.0
通し柱 12×6		25.0	12.5	12.5
ラミナ		12.5	12.5	12.5
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ柱角KD10.5×3、12×3、母屋角は強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキ柱角KD10.5×3、土台角10.5×4、通し柱12×6、ラミナは強含み。柱角12×3、土台角12×4は横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板、カラマツラミナは横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・カラマツの製材受注は好調を維持している（北海道）。
- ・トドマツ原木在庫に合わせて生産。既存先への安定供給を優先。生産即出荷の状況（北海道）。
- ・梅雨を挟み、丸太入荷の不調が聞こえるが、生産に大きなマイナスなし。輸出材とヒノキ集成土台の生産もあり増加が見込まれる。出荷は7月に入っても地場の調子が上がらず、盆時期で先行き懸念。動き悪くアイテムによっては過剰在庫発生。ヒノキ集成土台の製造に伴い当月在庫は増加見通し（東北）。
- ・製材品の動きは良いので、生産したものすべてを出荷する状況。ヒノキは全ての品目で在庫減。ヒノキラミナは集成材の引合いで荷動き上昇（関東）。
- ・生産量、スギ・ヒノキの樹種割合も変わらず。スギ製材品の在庫は年初から一貫して少ない。在庫を積みたくないまま秋を迎える可能性が高い（中部）。
- ・生産動向に変化はない。出荷は9月以降の需要期に期待している。梅雨の影響か顧客が在庫を嫌っている（中国）。
- ・生産・出荷道ことも7～8月は横ばいだが、夏期休暇で少し減るかもしれない。9月は増加する見通し。在庫は秋需を見込み増やす（中国）。
- ・天候不順のためヒノキ丸太の入荷減少。7～8月は気温35度以上になることから残業中止し、消費やや減少（九州）。
- ・ヒノキ製材品は残業時間中止のためやや減少。出荷動向は横ばいで順調に出荷している（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツ原木価格の値上がり分としてもう一段値上げへ（北海道）。
- ・スギKD10.5角は、12角程の価格落ち込みはなく、徐々に回復する見込み。10.5角と12角の価格差は大きいが見込み。8月末にかけて動き出す可能性もあるが、現状を考えると実感なし。ヒノキは高値で推移。外材値上げが当分続くので、代替品としてヒノキ土台は堅調。スギの集成柱角、ヒノキの集成土台角は固定客を中心に安定出荷。市場供給は過剰気味だが価格は安定（東北）。
- ・スギラミナも集成材の価格横ばいで同様の動き。ヒノキは価格安定（関東）。
- ・スギ製品は変動なし。ヒノキ土台角12×4mは値下げに踏み切っている（中国）。
- ・スギ10.5角は全く品物が足りない状態。少しずつ値上げさせてもらっている。間柱についても同じ状況。ヒノキは全体的に強基調。値上げが通りやすいものから少しずつ値上げ（九州）。
- ・ヒノキ製材品の価格はやや下落気味（九州）。

30年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	—	—	—
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	—	—	—
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	—	—	—
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・NZラジアータは仕入、消費、在庫動向とも3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
米マツ丸太	—	—	—
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・NZラジアータ丸太の購入価格は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・不需求期館内にて入荷、消費、在庫動向とも全く低調だ。

(原木価格動向)

・輸入時のFRTの上昇により原木の購入価格はやや上昇。

30年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
生産動向	米マツ製材品	—	—	—
	NZラジータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	—	—	—
	NZラジータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	—	—	—
	NZラジータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・NZラジータ製材品は生産動向は、7月、8月の横ばいから9月は減少に。出荷動向は7月の横ばいから8月、9月は減少に。在庫動向は7月の横ばいから8月、9月は増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
米マツ平角		—	—	—
米マツ正角		—	—	—
米マツ小割		—	—	—
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・梱包材（割板、割角）、土木用材とも横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・不需要期館内にて生産、出荷、在庫動向とも全く低調。

(製材品出荷価格動向)

- ・梱包材（割板、割角）、土木用材とも価格は上げられない状況。